

# JIS A 1128 新旧対照表

現行規格 (JIS A 1128:2020)		旧規格 (JIS A 1128:2019)		改正理由
箇条番号及び題名	内容	箇条番号及び題名	内容	
1 適用範囲	この試験方法は、最大寸法40 mm以下の骨材を用いたコンクリートに対して適用される。	1 適用範囲	この試験方法は、最大寸法40 mm以下の普通骨材を用いたコンクリートに対しては適用されるが、骨材修正係数が正確に求められない人工軽量骨材のような多孔質の骨材を用いたコンクリートに対しては適用されない。	人工軽量骨材の全てについて、これを用いたコンクリートに対してこの試験方法が適用できないとの誤解を生む表現を箇条1の適用範囲から削除し、多孔質な骨材の中には、骨材修正係数が正確に測定しにくいものもあることを注として箇条6の骨材修正係数の測定に記載した。
6 骨材修正係数の測定注 <sup>1)</sup>	骨材修正係数は、骨材が異なると変わる。通常、同一ロットの骨材では一定としてよいが、随時試験によって確認することが推奨される。なお、多孔質な骨材の中には、正確な骨材修正係数が測定しにくいものもある。	6 骨材修正係数の測定注 <sup>1)</sup>	骨材修正係数は、骨材が異なると変わる。通常、同一ロットの骨材では一定としてよいが、随時試験によって確認することが推奨される。	